



2月8日(水) 企業メセナ協議会設立15周年記念シンポジウム in 福岡
「文化で魅力ある地域づくり～市民、企業、行政の役割～」

社団法人企業メセナ協議会(東京都千代田区、会長:福原義春)は、設立15周年を記念して、2月8日(水)、福岡にてシンポジウム「文化で魅力ある地域づくり～市民、企業、行政の役割～」を開催します。本シンポジウムは、企業によるメセナ(芸術文化支援)活動への関心を高めるべく企業や一般の方々を対象に行うもので、文化による地域活性化を中心テーマとして実施します。

昨今、地域づくりや地域再生のキーワードとして「文化」が注目されていますが、その手法や考え方は、かつての「まちおこし運動」とは異なり、大型施設の建設や開発ではなく既存の地域資源の再活用へ、行政・企業・市民のパートナーシップによる取組みへと変化してきました。NPOの参加も大きな推進力となっています。本シンポジウムでは、地域に根ざした文化活動に取り組むさまざまな立場の方々を迎え、21世紀型の「文化を通じた魅力ある地域づくり」、芸術文化の力について考えます。

当協議会では、九州で初めての開催となる本シンポジウムをとおして、九州地区において企業メセナへの注目が高まり、メセナ活動が今後さらに活発になっていくことを期待しています。

【開催概要】

名称	企業メセナ協議会設立15周年記念シンポジウム in 福岡 「文化で魅力ある地域づくり～市民、企業、行政の役割～」
日時	2006年2月8日(水) 13:30～17:30 (13:00開場、17:40～交流会) 13:45～14:15 基調講演「深化する企業メセナ、15年の歩みと今後の展望」 14:20～15:50 企業トップ討論「地域社会を豊かにする文化の力と企業の役割」 16:00～17:30 トークセッション「市民+企業+行政のパートナーシップが育むまちの魅力」
会場	イムズホール(福岡市中央区天神1-7-11 イムズ9階)
主催	社団法人企業メセナ協議会
参加費	無料 事前の申し込みが必要 (交流会費別途1,000円)
定員	300名
申し込み	氏名、所属、連絡先(住所、郵便番号、電話、FAX、E-mail等)、交流会参加の有無、本シンポジウムを何で知ったか、をE-mail、FAX、郵便にて以下まで申し込み。 <u>申し込み締め切り:2月7日(火)</u> [参加申し込み先] MCP/企業メセナ協議会シンポジウム担当 E-mail:mcpfukuoka@yahoo.co.jp FAX:092-282-0553(FAX専用) 〒812-0027 福岡市博多区下川端3-1 博多リバレインセンタービル地下2階 文化芸術情報館アトリエ気付
問い合わせ	社団法人企業メセナ協議会 TEL:03-3213-3397 FAX:03-3215-6222 E-mail:mecenat@mecenat.or.jp
共催等	共催 : (財)福岡市文化芸術振興財団、福岡市 後援 : 福岡県、佐賀県企業メセナ協議会 協賛 : (株)ワコール 協力 : 福岡経済同友会、アサヒビール(株)、三和酒類(株)、(株)イムズ 制作 : ミュージアム・シティ・プロジェクト(MCP)

「文化で魅力ある地域づくり～市民、企業、行政の役割～」プログラム

(ご挨拶 13:30～13:40)

都合により、基調講演者・企業トップ討論パネリストが、福原義春([社]企業メセナ協議会会長・理事長)から、中江利忠([社]企業メセナ協議会副会長 / 元朝日新聞社社長)に変更になりました。

第1部

13:45～14:15 基調講演 「深化する企業メセナ、15年の歩みと今後の展望」

企業メセナ協議会の発足から15年。この間、各社のメセナプログラムの内容や運営手法、企業内での位置付けは、ますます深化してきました。企業が芸術文化支援活動を行うことの意義を改めて確認しつつ、15年間のメセナの歩みと今後の展望について語ります。

中江利忠([社]企業メセナ協議会副会長 / 元朝日新聞社社長)

14:20～15:50 企業トップ討論 「地域社会を豊かにする文化の力と企業の役割」

九州各地でメセナを推進する企業のトップを迎え、地域に根ざした継続的な活動や、時代の要請に応じた新たなメセナの取り組みについてご紹介いただきます。あわせて地域づくりにおける民間セクターの役割とメセナが企業にもたらす可能性について考えます。

【パネリスト】

小田原智一(九州電力[株] 常務取締役) [福岡県]
西太一郎(三和酒類[株] 代表取締役会長) [大分県]
村岡安廣([株]村岡総本舗代表取締役社長 / 全国メセナネットワーク座長) [佐賀県]
中江利忠

【モデレーター】

加藤種男(アサヒビール[株]社会環境推進部副理事 / [社]企業メセナ協議会研究部会長)

第2部

16:00～17:30 トークセッション 「市民＋企業＋行政のパートナーシップが育むまちの魅力」

アートの力をまちの活性化や地域資源の再活用に活かすケースが増えています。そうした事例から、これからの社会に求められる、市民、企業、行政の協働のあり方を探ります。

【事例報告】

「<だざいふ スタードームフェスティバル2005>のパートナーシップ」[太宰府市]
江藤応樹(だざいふ スタードームフェスティバル2005 プロジェクトチーム / CAT)

「地域劇団<うずめ劇場>の活動を支える地元のメセナ」[北九州市]
五島朋子(うずめ劇場・前制作 / 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター専任講師)

「福岡のまちを変えるアートプロジェクトの可能性」[福岡市]
山野真悟(ミュージアム・シティ・プロジェクト運営委員長)

【コメンテーター】 加藤種男

【モデレーター】 荻原康子([社]企業メセナ協議会シニア・プログラム・オフィサー)

交流会 17:40～19:00 希望者のみ(参加費 1,000円)

出演者 プロフィール

(敬称略、50音順)

第1部【基調講演、企業トップ討論】

中江利忠(なかえ としただ) (社)企業メセナ協議会副会長 / 元朝日新聞社社長

1929年千葉県生まれ。東京大学文学部社会学科卒業。53年朝日新聞社入社、東京本社経済部長、同編集局長などを経て、89～96年代表取締役社長。相談役を経て2005年まで顧問を務める。日本記者クラブ理事長、日本新聞協会会長を歴任。総合政策研究会、西洋美術振興財団各理事、発明協会評議員。デジタル、インターネット社会の進展の中で、ジャーナリズムの原点としての新聞の役割の再興をめざす。企業メセナ協議会の発足に関わった1人として、企業の社会的責任の一環としてのメセナ活動の深化、特に地域・市民との連携を訴える。共著に『都市にいだむ』、『世界が見た日本経済』、訳書に『都市の科学』、『都市の原理』、『ピューリッツァ賞物語』、『真実は伝えうるものなのか マスコミの世界』。05年、75歳の思い出を自らシャッターを押した写真でまとめた『75 Declics カメラで綴る回想』を出版。

第1部【企業トップ討論】

[パネリスト]

小田原智一(おだはら ともかず) 九州電力(株)常務取締役

1944年福岡県生まれ。66年九州大学法学部卒業、九州電力(株)入社。96年人事部長、99年理事鹿児島支店長、2003年取締役、04年から常務取締役、現在に至る。05年よりCSR推進部門担当役員。九州生産性本部生産性大学運営委員長、日本能率協会九州地域評議員会議長などを務める。電力自由化が進む中、人をコスト一辺倒で見るのではなく、いかす方向での改革・効率化をめざす人事労務の専門家。九州観光推進機構理事や九州国立博物館振興財団振興本部委員など、地域活性化やまちづくりにも携わる。

西 太一郎(にし たいちろう) 三和酒類(株)代表取締役会長

1938年宇佐市生まれ。60年東京農業大学農学部醸造学科を卒業後、同年「本格焼酎 いいちこ」醸造元、三和酒類(株)に入社。89年に代表取締役社長に就任し、97年に現職の代表取締役会長に就任している。「酒は地域の文化」「企業がつくり出す商品の文化」と文化活動に積極的な理解を示し、地域活性化にも情熱を燃やしている。また、同社の会長になった今も「iichikoを世界の酒に！」を合い言葉に、営業マンの一員として、全国各地に足を運んでいる。現職の他に、大分県教育委員、大分朝日放送(株)取締役、東京農業大学客員教授、大分県酒造組合会長、(株)大分銀行 監査役等も務めている。受賞歴には、90年九州・山口地域経済貢献者顕彰財団「経営者賞」、2000年東京農業大学「東京農大経営者大賞」等がある。

村岡安廣(むらおか やすひろ) (株)村岡総本舗代表取締役社長 / 全国メセナネットワーク座長

1948年佐賀県小城市生まれ。71年慶應義塾大学商学部卒業後、同社に入社。87年代表取締役社長に就任し現在に至る。佐賀県企業メセナ協議会の代表世話人を長らく務め、各国の文化と地域づくりの研究を行うほか、食文化史、郵便史等にも造詣が深い。84年砂糖蔵を村岡総本舗羊羹資料館に改築、97年に国の有形文化財に登録、2005年には村岡総本舗本店と併せて「22世紀に残す佐賀県遺産(県内17か所)」に認定される。小城羊羹協同組合理事長、全国銘産菓子工業協同組合副理事長、佐賀経済同友会副代表幹事、佐賀県選挙管理委員会委員。著書に『村岡安吉伝』、共著に『江戸時代人づくり風土記「佐賀」』(農文協)。

[モデレーター]

加藤種男(かとう たねお) アサヒビール(株)社会環境推進部副理事 / (社)企業メセナ協議会研究部会長

1948年兵庫県生まれ。90年にアサヒビール(株)企業文化部課長就任以来、企業によるメセナ活動を幅広くリード。2001年より現職。02年より(財)アサヒビール芸術文化財団事務局長。アサヒビールのプロジェクトとして、アサヒ・アート・フェスティバル、ロビーコンサート、文化・音楽講座等多彩なメセナ活動を展開。アートと市民社会をつなぐ企画のプロデュースを多数手掛ける仕掛け人としての顔も持つ。04年より(財)横浜市芸術文化振興財団専務理事・事務局長として横浜市の文化政策推進の旗振り役も務める。文化経済学会理事、日本NPO学会理事、日本NPOセンター評議員、埼玉県芸術文化財団理事。共著に『社会とアートのえんむすび つなぎ手たちの実践』。

第2部【トークセッション】

【パネリスト】

江藤応樹(えとう おうき) だざいふ スタードームフェスティバル 2005 プロジェクトチーム / CAT

2003年、太宰府市役所入庁。「何かおもしろいことがしたい」と同市役所若手職員をメンバーとする地域活動団体CAT(Community Activate Team)を思いつきで結成。全国のアートNPOや市民団体との協働による「アサヒ・アート・フェスティバル(AAF)」に思いつきで応募。予想に反してAAFに採用され、05年9月に「だざいふ スタードームフェスティバル 2005」を開催する。次の「AAF2006」への参加も決定し、今後いろいろな人たちと一緒に太宰府で何か楽しいことをする予定。

五島朋子(ごとう ともこ) うずめ劇場・前制作 / 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター専任講師

ルーツは天草。生まれは長崎県諫早市。九州大学にて近代西洋建築史を学ぶ。1988年大学院修了後、東京都世田谷区と福岡市で建築技術職として働く。99年公務員を辞め、九州芸術工科大学大学院(現九州大学)に社会人入学。藤原恵洋教授が主宰する「福岡ワークショップデザイン研究会」の事務局として、住民参加によるまちづくりや地域固有資源を活用した芸術文化創造を実践的に学ぶ。福岡市内外で劇場外空間を活用した舞台制作や、老朽化した公立文化施設を活性化する市民活動等に携わりながら、2003年よりドイツ人演出家ペーター・ゲスナーが主宰する北九州の劇団「うずめ劇場」の制作を務める。05年より現職。

山野真悟(やまの しんご) ミュージウム・シティ・プロジェクト運営委員長

1950年、福岡県生まれ。71年に美学校銅版画教場卒業。70年代より美術作家として活動するとともにIAF芸術研究室を主宰。80年代より「まちとアート」をテーマにした美術プロジェクトやコーディネートなどを多数こなす。1990年よりミュージウム・シティ・プロジェクト事務局長、98年より現職。2004年より「ギャラリーアトリエ(福岡市文化芸術振興財団)」企画運営。「横浜トリエンナーレ 2005」キュレーター、2005年度「福岡市文化芸術による都市創造ビジョン懇話会」座長など。

【モデレーター】

荻原康子(おぎわら やすこ) (社)企業メセナ協議会 シニア・プログラム・オフィサー

茨城県「アークスプロジェクト」構想策定調査、国際交流基金アーティスト・イン・レジデンス研究会等に関わった後、(株)INAX文化推進部に所属。1996~2000年までキュレーター・オフィスにて美術展の企画運営に携わり、01年に(社)企業メセナ協議会入局。顕彰事業「メセナアワード」、機関紙「メセナノート」、セミナー等を担当するほか、コーディネート事業として「アサヒ・アート・コラボレーション」(美術展シリーズ)を手掛ける。

社団法人企業メセナ協議会

企業によるメセナ(芸術文化支援)活動の推進を目的とする民間企業の連合体として、1990年2月に発足した公益法人。主たる事業として、企業の芸術文化支援についての、1.啓発・普及、2.情報集配、3.調査・研究、4.顕彰、5.国際交流、6.助成を行っている。会長:福原義春。
正会員 146社、準会員 39団体。(2005年12月現在)

本件に関するお問い合わせ先

社団法人企業メセナ協議会 広報担当:渡辺、シンポジウム担当:若林
TEL:03-3213-3397 FAX:03-3215-6222
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 第一鉄鋼ビル1階
E-mail: mecenat@mecenat.or.jp URL: <http://www.mecenat.or.jp/>